

# 兒童心理學文獻抄 四

牛 島 義 友

## 田舎兒童と都會兒童

### 三 社會的環境

前回は人間性を構成してゆくに重大な關係のある環境の中主に家族的家庭的環境を考へたが、次に子供の育つ社會、その代表的なものとして都會と田舎に於ける兒童の精神の相違を考へて見る。

地方から都會の學校に轉校して來た兒童は多く無口で控へ目で小さな所に注意が行き届かず、即ち氣が利かなくてぼんやりしてゐて而も粗野である爲に劣等生扱ひにされる事がある。併し都會生活に慣れるに従つて意外にも智能が高く而も底力のある事に驚く。之に反して地方の小學校に

東京の子供が轉校して來るに全生徒の驚異と羨望の對象となりその巧者な言葉遣ひと積極的な態度によりいかにも聰明らしく見える。併しこの英才兒が間もなく地元の生徒に追ひ越されてしまふ事は屢々見られる現象である。

之は都會兒童が田舎兒童より智能が優秀な爲であるのか、或ひは全く相異がなき爲であらうか、色々研究して見ると、都會兒の方が智能が幾分優秀ではあるが兩者の相違點は智能の程度よりも寧ろ智能の性質が異なる事にある様である。即ち智能検査なきをして見るに言語的検査即ち質問に答へたり説明する等言葉を以て答へねばならぬ様な検査では都會兒童の方が優れるが作業検査即ち命じられた事を實行するのに言葉を必要としない様なものでは田舎兒童の

方が優れてゐる。云ひ直せば都會兒の智能は言語的であり、田舎兒の智能は實際的である。

小木會恩、小林晃夫「都會兒童と田舎兒童」(心理學研究第五卷、一九三〇)は此の智能の性質の相異を見る爲に東京の某小學校六年生と信州某村の小學生に聯想實驗をしてゐる。その結果を見るに例へば「お祭」云ふ言葉に對し田舎兒は「遊ぶ」都會兒は「お神輿」が一番多く「雨」に對し前者は「ぬれる」後者は「傘」が多く、「高い」に對し前者は「山」後者は「低い」が主になる云ふ風に聯想語の中に都會生活と田園生活の相異が反映してゐる。此の事を少し分析的に見るに都會兒童は田舎兒童に比し概念的抽象的聯合が多く田舎兒童には經驗的具體的聯合が多い。例へば

長い	に對し	都會	田舎
短い	道		
白い		黒い	雪
時計	時間	鳴る	
蟬	夏	啼く	

又都會兒は客觀的な靜觀視した言葉を聯想するに對し田

舎兒は自分に即した主觀的動詞的語を以て反應する傾向が見られる。

都會	田舎
困る	悲しい
痛い	せつない
貧乏	
怪俄する	
食べる	
山	
茸	

次に聯想語の種類は田舎兒童の方が多くなつてゐる。即ち田舎の子供は刺戟語に對し自分に關係ある個人的な言葉を聯想するのでその種類が多いが都會兒の方は「高い」に對し「低い」の如く抽象的に考へるのでその答が相互に類似して來るのである。

次に記憶を見るに一般に都會兒の方が成績がよかつたが都會兒に多く聯想された言葉の記憶は都會兒の方がよく覚えて居り田舎兒童に多く聯想された言葉を記憶するに田舎兒童の方がよく覺える。

次に物の説明の仕方を見るに考へ方の傾向が分る故に「風」は「なんなものです」か「等の質問をした所、之に對し都會兒童に「空氣が揺れる」風になります」云か、「空氣で出來

た物です」等の智的分析的説明をなす者が多いが、田舎兒童は經驗的具體的説明をなして居る。例へば「表なきでビュツミ吹くもの」「さか「寒いもの」「手も足も耳も目もなく世界中小さんで歩くもの」「木が息をして空気が揺れるもの」等の答へ方をして居る。

小林晃夫「都會兒童の遊戯と田舎兒童の遊戯」(心理學論文集第四輯、昭和八年)

又遊戯なきの種類も農林ミ都會ミでは異つて來る。東京ミ埼玉縣下の小學兒童約一千五百名に一週間に互つてその日その日に遊んだ遊戯、最も面白かつた遊戯及びその友達なきを日記につけさせた所次の様な色々の結果が見出されてゐる。

先づ遊戯の種類は都會の方が田舎よりも多い。之は各學年を通じて明瞭に現はれてゐる事でその原因ミしては田舎には新しい遊戯は中々移入されぬ事及び田舎人の保守的傾向等が考へられる。又田舎では學年が進んでも遊戯の種類に大した變化はないが都會ではかなりの消長がある。例へば女の子ではお手玉、かくれんぼ、ふざけっこ、人取り等

の類は漸次減少し、之に代つて人形あそび、編物、まごころ等の家庭内のものに變化して行く。之に反して、田舎は、鞠つき、石けり、はしごだん、なきの簡單な遊戯が、各學年を通じて何ら變化する事なく壓倒的に行はれて居る。

又遊戯の種類は田舎では素樸的なもの例へばぶつけ、石けり等單純なものが多く、都會ではもつみ技巧を要する知的なもの、即ち野球、馬飛び等が多い。

又都會では室内遊戯が多いが田舎では大部分戶外の遊戯である。之は田舎兒童は室内で遊ぶ玩具は持たぬが戶外には廣い自然が解放されてゐるミ云ふ事にもよるが、更に彼等は室内で遊ぶ時間がないミ云ふ事が大きな原因である。

即ち家に歸るミ子守は、落葉掻き、稻刈り、芋掘り、車挽き等の家の手助けをせねばならぬので都會兒童の様な遊戯をする事が出来ない。而して彼等はかゝる仕事を勞働ミしては感ぜず、遊戯ミして感じてゐる。即ち一番面白かつた遊びミして以上の様な作業を擧げるものが多い。

その他友達の数なきも都會兒では色々の種類の友達があ

るが、田舎では限られた近隣の児童のみである。

尙田舎児童の性格的特色に就て詳細な研究をしたボーデ氏及びフックス氏の言を借りて田舎児童を特色つけて見やう。

「田舎児童の心理」(P. Bode u. H. Fuchs: Psychologie des Landkinds)

田舎児童は自然との密接なる關係、健康なる身體、特殊の遺傳素質、並びに彼を取巻く特殊な社會關係によりその性格が構成されて來る。例へば普通の児童では青春期に反抗期が現はれるものであるが、田舎児童に於てはかかる現象は餘り著しく現はれて來ない。之は田舎児童は極めて自然的な生活をしてゐるので周圍に對し矛盾を感じたり、壓迫を感じる事が少い故に反抗的でないのである。併し又その爲に自我の自覺なごも著しくはない。

又田舎の農夫なきは自分の村にあつては萬事を熟知し、自信を以て確實な歩みで生活をしてゐるが一步村を離れると全く恐懼おく所を知らぬ有様であるが、その子弟も同様である。即ち彼等には自分等の世界と他の世界とが明瞭に

區別されて居り、所謂頑迷な排他的傾向等が養はれて來る。

又彼等の踏襲してゐる習慣には完全に融和してゐるが、異なつた風習、流行に對しては強い驚愕と嫌厭を抱く。今日田舎児童に於ける代表的性質を擧げて見るに、

#### 一、非社交性

二、剛健性、彼等は身體の方はすみやかに生長してゐるが精神の方は徐々である爲に態度が粗野であり、又女も男も同様な仕事、遊戯をする所から女らしい繊細さが缺けて來る。

三、實踐性、彼等は早くより家業に参加するので實際的な目的な傾向が強くなる。單なる遊戯には無關心で競技に於ける名譽心等は乏しく、それよりもむしろ家業の興廢に深い關心を有す。

四、感動性、彼らは生活に於ける些細な出來事に對しても容易に感動し、共に喜び共に悲しむ。併しその感動性は衷心より流れる情緒ではなく表面的な感情の發露である。

#### 五、素朴性

## 六、悠長性、

以上の諸性質によつて田舎兒童が理解されるが、一言に  
て言現せば自然的である事が彼等の本質を云へよう。

さて以上の如き社會に育ち自然的な生活を送つて生長した兒童は生活に對する考へ方もそれに影響される。例へば將來の職業に對する希望を聞くにライウンゲル、及びミューレルの研究によるに都會兒は事務的職業に就かんことを欲し、田舎兒童は農村業に従事せんことを。同じ工業希望者でも都會兒童では電氣、機械、金屬加工、衣類工業の方が多いが、田舎兒童では木材加工、建築、食料品工業等の希望者が多い。此の職業希望の動機をうかがふに田舎兒童はその仕事が好きだから云ふ者が大部分であるが都會兒童では兩親の希望によるに親の職業を繼ぐに自分の目的理想實現の手段となすものが割合に多くなつてゐる。云ひ直すに都會に於ては兩親並びに兒童自身が職業に關し重大な關心を有してゐるが田舎に於ては割合に無關心になつてゐる。

尙最近日本に於ては農村子弟の離村問題が問題となつて

るが、青木、河野氏（村落社會の智能構成に關する調査、村落社會學會報、第二輯）の研究によるに居村的職業を選ぶ兒童は智能の低いものに多く、離村的傾向は智能の高い者に多く、又都會近くの村落よりも山村にこの傾向が多い。この傾向は農村の智能水準を低める事となり農村の困窮化に一層拍車をかけるものである。

以上の如く都會で育つか田舎で育つかによつてその者の精神生活の様相が著しく相異して來るがその他大都市、小都市、工業都市、商業都市、或は學校都市によつて影響される所は各々異なるし、同一都市でも山ノ手、下町で子供の生活傾向、氣風を云つたものが相異して來るのは衆知の事實である。故にその教育もかゝる社會環境に相應した方針に基かねばならぬし、又その兒童にきり不適當なる場合にはその環境を變へてやる事が甚だ必要である。